

# ITS世界会議 愛知・名古屋 2004開催のご案内

## 名古屋市を中心に開催

第11回ITS世界会議 愛知・名古屋2004「夢いっぱいITS未来博」が、「飛躍する移動－ITS for Livable Society」をテーマに、2004年10月18日～24日の間、名古屋市を中心に開催されます。日本での開催は、1995年第2回横浜大会以来となります。

会議は、セッション、展示会、テクニカルツアー等で構成され、専門家のみならず、広く一般市民も参加し、ITSがもたらす新しい交通・時代を社会全体で考える、市民参加型の世界会議をめざしています。

また、プレイベントとして、全国のITS組織と連携し、各地でITSに関する市民参加のイベントを開催するなど積極的な市民参加が進められます。予定参加数としては、会議開催主会場に会議登録者5千人、全体で5万人、全国で延べ50万人を見込んでいます。

(ITS 統括研究部次長、島田伸一)



ポートメッセなごや



愛知芸術文化センター



世界会議のポスター



世界会議のロゴマーク

### 開催スケジュール

開催内容・場所	10/18 (月)	10/19 (火)	10/20 (水)	10/21 (木)	10/22 (金)	10/23 (土)	10/24 (日)
開会式	●						
会議		●	●	●	●		
展示・イベント		●	●	●	●	●	●
閉会式					●		

# ITSアメリカ 2004 第14回年次総会報告

## はじめに

第14回ITSアメリカ年次総会が、4月26日から28日の3日間、「アラモの砦」で有名な米国テキサス州サンアントニオ市のヘンリー・B・ゴンザレス・コンベンションセンターで開催されました。展示関係者を含め約3,300人の出席者が、最新の技術や情報を調査・PRするため会場を訪れました。会場では分野ごとのセッションとフォーラムが開催されたほか、並行してワークショップやテクニカルツアーが実施されました。また会場には約170の展示コーナーが設置され、ITS関連の新商品、技術の紹介もされました。

## 主要な話題

今年のITSアメリカ年次総会は交通事故死者ゼロ（ゼロ・フェイタリティー）、交通渋滞による遅延ゼロ（ゼロ・ディレイ）をビジョンに掲げ、安全と警備および運転者への情報提供に焦点が当てられていました。話題の中心の一つにはV I I（Vehicle Infrastructure Integration）があげられる他、セキュリティ、セイフティー、旅行者情報に関するセッション・フォーラム等が多数開催されました。

## オープニング

オープニングセッションは26日午前、会場でも最大の会議室で開催され、当日の入場者の大多数と思われる約1,000人が参加しました。ITSアメリカ会長の挨拶では、今回のテーマとしてゼロ・フェイタリティー、ゼロ・ディレ



挨拶する玖野部長

イについて述べられたほか、安全に関するキーノートスピーチや、ITS Japanの玖野国際部長から今年のITS世界大会（名古屋）の紹介もありました。また、昨年は夜の式典で行われた、前年度にITS関連の施策・技術で優秀な成果を挙げた人物や組織に対する表彰式が、今回はオープニングセッションの中で行われました。

## セッション

今回のセッションは66の発表があり、それぞれ、自動車/通信と消費者エレクトロニクス、交通システム運用と計画、

旅行者情報、公共交通、公共安全、商用車と貨物輸送、方針/評価と支援、ITSビジネス、調査/訓練教育の9種のテーマで12~13の部屋に分かれ、並行して実施されました。

それぞれの分類のセッションの代表的な内容は以下の通りです。

- ・自動車/通信と消費者エレクトロニクス：プローブデータ、ネットワーク、V I I、国際マーケット
- ・交通システム運用と計画：交通管理センターの運用管理やシステムの導入
- ・旅行者情報：情報の必要性、現在の状況提供システム、511
- ・公共交通：顧客の要望、電子支払、緊急自動車や信号制御
- ・公共安全：ホームランドセキュリティ、救急事故管理、無線911
- ・商用車と貨物輸送：商用車情報システム、港やターミナルでの貨物速度改善、国境税関での安全警備
- ・方針/評価と支援：連邦助成金、iFLORIDAの報告、評価ツール、公共安全と輸送のパートナーシップ



オープニングの中の表彰式



セッション

- ・ ITSビジネス：中国オリンピック、各国ITSマーケットの予想、適正価格試験プロジェクトの採用
- ・ 調査/訓練教育：ITS教育プログラム、ITSネットワーク、アーキテクチャ、アプリケーション

## フォーラム

今年からセッションのほか27日にはフォーラム・ショーケースという新しい形式で、複数の発表者が発表し、聴視者の質疑のほか意見交換を重視する形式の発表方法も試みられましたが、セッションにおける質疑応答と特に大きな違いは無かったように感じられました。

## 展示

業界のテーマである機動性、安全性、セキュリティーの融合を反映し、展示は屋外表示板装置、交通管理用光ファイバー伝送設備や信号機等交通管理プログラム、ビデオ監視装置などが多く出展されていました。旅行者安全、混雑対処、公共安全、国家防衛、資金繰りと知識とネットワークの拡大などへの挑戦をスローガンとしていますが、展示物の内容的には昨年度と同様と思

われました。

日本の企業としては、三菱電機の現地法人1社のみで、プラズマディスプレイを展示していました。

また、今回の新たな試みとして展示会場の一角でライブデモが行われ、事故に対する救急活動のシミュレーションなどがおこなわれました。会場には状況説明用の大型ディスプレイのほか

救急車やパトカーなども準備され、ITSによる通信連絡により、生死の境にある被害者にいかに早急に適切な処置を施すかなど、デモによる説明がおこなわれました。

## おわりに

業務多忙の中、今回の調査に参加していただいた、各機構、電機メーカー、建設コンサルタントの皆さまに厚く御礼を申し上げます。

(ITS統括研究部調査役、小池幹生)



展示会場



展示会場

# DSRC 普及促進検討会設立と活動概要

## 1. DSRC 普及促進検討会の設立目的

DSRCはETCに使用されている通信方式で、ETC以外にも駐車場、ガソリンスタンド、コンビニエンスストアなど多くのサービスに応用できるよう工夫されています。

平成13年に開始されたETCサービスは全国に広がり、車載器のセットアップ数は平成16年3月現在で約270万台、ETCの利用率も15%を超えるなど、急速な広まりをみており、ETC以外の応用サービスが展開されることで、ETC利用のさらなる普及が期待されています。

DSRC普及促進検討会はDSRC応用サービスの関係者が協力してビジョンを共有し、具体的な方策を検討・提言す

ることにより、DSRC応用サービスを早期に普及させることを目的として設立されました。

## 2. DSRC 普及促進検討会 設立総会開催

去る1月22日、DSRC普及促進検討会設立総会が霞が関プラザホール（霞が関ビル1階）において開催されました。

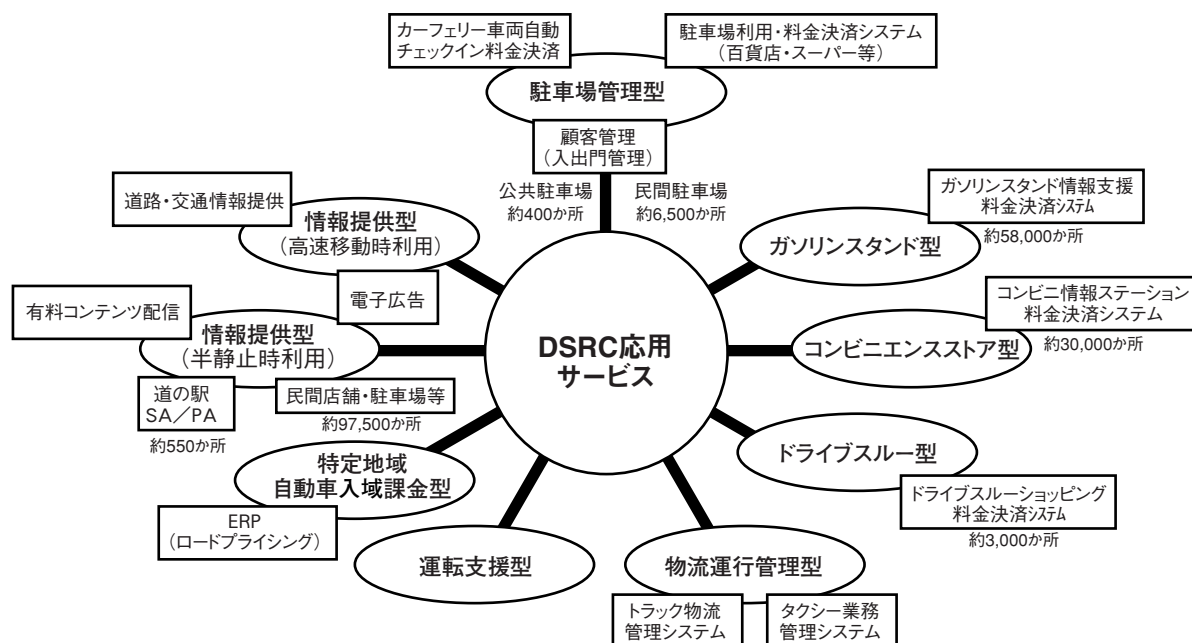
設立総会では、来賓の有富寛一郎総務省総合通信基盤局長から祝辞があり、設立趣意書の趣旨に賛同し、会則を定めて、DSRC普及促進検討会の設立を議決しました。次いで会長として渡邊浩之トヨタ自動車株式会社専務取締役を選出しました。

最後に事務局から、活動計画及び作業部会の運営に関する説明と提案があり、事務局提案どおり承認しました。

引続きDSRCに関する講演として、①石太郎氏（ITS世界会議愛知・名古屋2004日本組織委員会事務局長）から、『ITS世界会議愛知・名古屋2004』にむけての展望、②奥田光氏（スマートウエイパートナー会議DSRC検討部会主査）から、DSRCアプリケーションの実用化展開の方針、③柳内洋一氏（ITS情報通信システム推進会議DSRC規格タスクフォース主査）から、DSRCアプリケーションサブレイヤ（ASL）技術資料ARIB TR-T17について講演がありました。

設立総会には、当日までに入会申し込みを行った199会員のうち171会員（277名）が出席しました。また本検討会には、警察庁、総務省、経済産業省及び国土交通省（道路局及び自動車交通局）が、オブザーバーとして参加がありました。

### 期待されるDSRCの応用サービス





なお、本検討会の事務局は、(社)電波産業会、(財)道路新産業開発機構及び(財)日本自動車研究所が共同して行うこととなりました。

### 3. DSRC普及促進検討会の活動概要

設立総会では、DSRC普及促進検討会の活動計画として、以下の内容が承認されました。

#### 1 DSRC応用サービスの早期実現のためのビジョン、アクションプランの作成及び実行支援

(1) 実用化アクションプランの作成と実行支援

DSRC応用サービスの内容を検討し、展開プログラムを作成する。

##### 1) サービス内容の検討

入出門管理サービス、認証・決済等

のDSRC利用サービス、情報提供サービス等の内容を検討し、展開ステップ毎に整理する。

##### ① 入出門管理サービスの展開

通門サービス、会員制駐車場管理等

##### ② 汎用決済サービスの展開

駐車場、GS、コンビニ等のICカード決済等

##### ③ プッシュ型情報提供サービスの展開情報提供等

2) DSRC応用サービス拡大策(支援策)の立案と推進

##### (2) 実証実験プログラムの作成

1) ITS世界会議(名古屋)の展示・デモでの実証実験プログラム作成

2) 愛知万博(愛・地球博)で実用化するサービスと実証実験するサービスの展示・デモのプログラム作成

#### 2 スムーズな普及促進を目指した運用面の課題検討

DSRC応用サービスをスムーズに実現・普及させるための運用スキームを検討する。

##### (1) 相互接続性確保のための活動

相互接続性試験方法、しくみの検討等

##### (2) 相互運用性確保のための活動

アプリケーション/サービス手順の共通化検討、複数の事業者/ベンダー等における相互運用性実現の枠組検討等

#### 3 サービスの品質維持向上の施策と提案

##### (1) 規制の枠組に関する提案

DSRC機器に関する規制等

##### (2) 標準規格・技術標準等の枠組に関する提案

DSRC車載器の接続性と拡張性を担保する標準規格等

DSRCシステム基地局設置のガイドライン等

#### 4 その他DSRC応用サービスの普及に必要な事項の提案

ユーザー要望の把握、DSRCの健全な活用と発展のための施策、広報等

### 4. DSRC普及促進検討会の今後の活動予定

今年10月に名古屋で開催されるITS世界会議での実験やデモンストレーション、平成17年の愛・地球博での一部サービスの実運用を視野に入れ、シナリオ、マイルストーン、ビジネススキーム、実施体制、標準化、相互接続性・相互運用性の確保、その他ビジネス化の環境整備に関する具体的な方策に関する検討・提言等を行い、DSRC応用サービスの普及促進のための活動を進めていく予定です。

(上席調査役、浜田誠也)



設立総会での講演の様相



設立総会には多くの会員が参加

# 平成16年度道路懇談会開催される

## はじめに

道路懇談会は、賛助会員の代表の方にお集まりいただき、当機構の調査研究等の取り組み状況についての情報提供や、ご意見をいただく場として、平成12年度から毎年開催しております。今年度は、4月15日(木)に開催し、24社から27名の方にご参加いただきました。以下に、概要について紹介致します。

## 道路関係予算概要について

当機構の安達専務理事の冒頭挨拶後、平成16年度の道路関係予算概要について、今年度の道路関係予算のポイントである、道路行政に「成果主義」を取り入れ、「道路種別予算」から成果に対応した「業績予算」への転換を図った点、また、ITS関連として、平成19年度のETC利用率を70%に設定したこと、弾力的な料金施策、ETCの利用促進、そしてスマートICの活用等の施策及びITS事業費が732億円と、前年度比47億円増加したこと等を説明しました。

## 機構の調査研究等の取り組み状況

平成15年度の当機構の取り組み状況



熱心な表情の参加者の方たち



挨拶する安達専務理事

及び平成16年度の前定について、1) ITSの推進、2) 物流システムの高度化、3) 道路及び沿道環境改善、4) 道路に関する新事業分野の開発、以上4つの分野における調査研究状況とITS普及促進活動としての、1) 事業計画説明会、2) ITSセミナー、3) スマートコミュニケーションシンポジウム、4) 海外調査団等の派遣、について概要説明をいたしました。

次に、各部から個別案件について、以下の紹介を行いました。

調査部：「道路環境ビジネス」「道路ユビキタス」及び「道路交通情報提供ビジネス」についての取り組み状況。

企画開発部：「高速道路を活用した地域活性化」「地下鉄を活用した都市内物流システム」等、機構における最先端のITS関連事業への取り組み状況及び「道路防災対策支援システム」等の地域ITS事業に係わる取り組み状況。

ITS統括研究部：「DSRC技術研究」等のDSRCに関係する最先端の技術開発動向及び「ITS国際標準化と海外の動向」に関する活動状況。

## 意見交換

機構による取り組み状況の報告説明のあと、各社の出席者の方々から、機構の事業、本日の説明内容に関しての、貴重なコメントをいただきました。その中でも、多くの意見をいただいたものとしては、ETCの次となるべきITSのビジネスモデルが、確立されていない点が挙げられ、機構と共に新しい事業機会を創造していきたいとのこと、お考えを示していただきました。さらに、当機構が取り組んでいる幅広い自主研究に対して、ビジネスモデルへの展開を期待するコメントも、多くいただきました。

## おわりに

道路懇談会は今回で5回目を迎え、内容的にも大変充実してきており、参加していただいた方に、とても有意義な場であったと思われまふ。多忙な業務の合間を縫ってご出席いただいた方には、この場をお借りして御礼を申し上げますと共に、次年度以降につきましても、今回の反省点を踏まえて、更なるブラッシュアップを図って、道路懇談会を開催したいと考えておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

(ITS統括研究部調査役、遠藤太嗣)

# 日本橋学生工房第二期生活動報告

## 1. はじめに

日本橋学生工房とは、日本橋が好きな学生のボランティア集団である。原則としてメンバーは1年交代であり、昨年度は平成15年6月から平成16年5月まで4大学、計13名の学生が第二期生として活動してきた。しかし、その活動までもが毎年一新されるわけではなく、前期生からの流れを引き継いだものとなっている。



日本橋の橋洗い

## 2. 第二期生活動コンセプト

第二期の活動コンセプトは、大きく捉えると以下の2点にまとめることができる。

①地元が主体となって「まちづくり」の議論ができる“場”をつくる

まちづくりの決め手は、いかに素晴らしい絵を描くかということではなく、“いかに地元が主体となって動いているか”である。そこで日本橋の将来像を描くことよりも、まずまちが一体となって、真剣に日本橋のあり方について議論する場づくりを、第一コンセプトとした。

②できるところから“行動”に繋げる

話し合いだけで行動に繋がらない会合は、何も次に繋がらないだけでなく、まちづくりの士気を低める、といっても過言ではない。そこで議論を行い、ある程度的一致が見られた場合は、それをすぐさま行動に移すことを、第二コンセプトとした。実際に行動に移すことにより、実体験としてその方向性の善し悪しを判断できるのである。

こういったコンセプトのもと、具体的には以下の2点を基本に活動してきた。

i) 信頼関係によるまちとの対話

まちの方々と信頼関係を築き、様々な場面で常に対話をした。具体的には、町会の行事には常に参加したり、自分たちの活動報告書を毎月作成し、町内の方々に配付したりと、まちの人と対話する機会を、できるだけつくった。

ii) 議論のたたき台となるまちづくり提案

まちの方々の議論を引き出すため、議論のたたき台となるような、提案づくりを行った。つまり、理想的な日本橋の将来像を描き出すことよりも、敢えて議論を呼ぶような提案を行ったり、まちづくりのプロセスに重点を置いた提案を行ったりした。

## 3. たたき台とした提案内容

まちづくり提案をするにあたり、まず日本橋の現状分析を行ったあと、「老舗集積エリア」、「川沿いエリア」、「中央通りエリア」の3通りの方向から、提案づくりを行った。

### 3-1. 日本橋の現状分析

日本橋の現状をネガティブに分析すると、確かに「景観の喪失」や「住民の減少」といった部分がみられるが、ポジティブに見れば、いまだに「江戸っ子文化」は色濃く残存しており、「日本橋ブランド」は、特に地方においては根強く残っている。

この江戸っ子文化、つまり日本橋の“人”に着目し、その魅力をどれだけ演出できるか、を日本橋活性化の決め手であると考えた。

### 3-2. 老舗集積エリア

東京で特に古い老舗が集積している室町一丁目・本町一丁目を対象エリアとし、その中心の通りである「室町仲通り」をきっかけとして、まち全体が活性化するような提案を考えた。例えば、通り沿いの建物に、ある高さで軒を構えることにより、目線のレベルでの統一感を出し、その軒下において様々な出会い、コミュニティの中心的な空間を、形成することを提案した。



### 3-3. 川沿いエリア

現在、日本橋川の議論は、首都高速道路の移設のみに偏り過ぎている。高速道路の存在以前に、川に背を向けたまちのあり方を、見直すべきである。

そこで、この「川からのまちづくり」を行うプロセスについて提案を行った。それは①川に関心を集める、②川沿い空間の整備、③まちとの融合、という流れである。

このようにして、川を中心としたまちが形づくられてくる中で、高速道路の移設が行われてはじめて、意味のある移設になるのではないだろうか。



「バーサス日本橋水上体験」の三越のボート

### 3-4. 中央通りエリア

中央通りの回遊性を高めることは、日本橋に人々を呼び込みきっかけになると考えた。そこで、中央通り沿いの三井本館等を、現代の時代に合った利用法にリノベーションすることや、地方銀行の1階は、各地方の物産展や飲食店を入れることを提案した。

## 4. 川沿い空間での“行動”

以上のような提案をたたき台に議論を繰り返す中で、様々なことを“行動”に移してきた。ここではまず川沿い空間での“行動”について説明する。

川沿い空間では、「川沿いエリア」で説明した、『プロセス①川に関心を集め

る』に即し、川沿いでのカフェの設置(川カフェ)、川上でのボートイベント(バーサス日本橋 水上体験)を行った。

#### 4-1. 川カフェ(7/27開催)

このイベントは、日本橋橋詰の滝の広場において、地元老舗のご協力のもと、川沿いカフェを開き、落語家の公演もあり、多くの人々で賑わった。また地元小学生に、理想とする日本橋川の将来像を、絵で自由に描いてもらい、カフェに展示した。

#### 4-2. バーサス日本橋水上体験(10/26開催)

このイベントは、日本橋川において「三越」対「高島屋」等、川を挟んで南北のライバル町会や企業、合計16団体が、

伝統ある半纏や様々な衣装を身にまとい、息を合わせてボートを漕いだ。当日は一般の人も含め500名近くが、川からの日本橋を体験した。

今後はこういった、多くの人々を巻き込んだイベントを恒例とし、そういった人々が、より一層川に関心をもつことで、いかに川沿い空間の整備に繋げていくかが課題である。

## 5. まちでの“行動”

次にまちでの“行動”、つまり日本橋室町・本町の方々を巻き込んだ“行動”について説明する。

まちでの“行動”については、まず、まちが一体となって議論する“場(連合会議)”づくりから行い、その“場”において、最も議論の集中した内容について“行動(社会実験)”を行った。さらに、より垣根なく、自然な形で議論が行われる“場”を目指した、『日本橋サロン』の開設も期間限定で行った。

#### 5-1. 連合会議(9/17~1/13開催)

室町・本町地区に幾つも存在する団体から垣根なく人を集め、まちの全体的な視点に基づいて議論することを目



まちでの“行動”の連合会議



的に、『連合会議』を打ち出した。

議題としては、日本橋学生工房の提案において、特に関心の集まった「室町仲通りの活性化」を取り上げ、ワークショップ形式で行った。

### 5-2. 社会実験 (4/4 開催)

『連合会議』で議論の最も集まった、「室町仲通りにおける安全な歩行空間の確保と、たまり空間の有効性」について、実際に社会実験（“行動”）を行った。

実験内容としては、室町仲通りを車両通行止めとし、安全な歩行空間を確保した上で、縁台や野立て傘の設置により、たまり空間を創出した。また、通り沿いの各店舗も、通りを向いた演出（店頭での実演販売等）を行った。そして、その効果の検証を、ビデオ調査やアンケート調査によって行った。

実験当日は、平常時に比べ倍以上の人が、室町仲通りを訪れた。周辺交通は平常時とさほど変化はなく、室町仲通りの、歩行者専用道路化の可能性が見られた。しかし、今回は実験が日曜日のみであり、今後は平日における地域ルールづくりや、車両通行状況の検証が必要であり、その中で最適な仲通りの状態を、形成してゆくことが課題といえる。



室町仲通りにおける社会実験

### 5-3. 日本橋サロン (3/29～4/4 開設)

『連合会議』に対して、より自由に集まり、ざっくばらんに、好きなだけ議論を交わすことができる“場”として、『日本橋サロン』を開設した。

『日本橋サロン』とは、仲通り沿いの空き倉庫を改装し、昔の日本橋の写真や書物の展示により、情報発信基地とただだけでなく、まちの方や外来者が自由に休憩、話ができる場所とした。ふらっと立ち寄り人から昔話を話してくる人まで、非常に様々な人が集まり、週末はまちの方々が酒を片手に集まり、朝まで日本橋について語り合った。

この『日本橋サロン』は予想以上に評判がよく、今後は、いかに『日本橋サロン』を常設にしてゆくかが課題で

ある。

## 6. まとめと展望

以上のように、私たち学生工房は“人”を日本橋の一番の魅力と考え、その“人”が集まり議論する“場”があること、そしてその議論が必ず“行動”に繋がれることを、コンセプトに活動してきた。

初め第一期生は「よそ者」として日本橋に入ったが、地道な活動により、地元の方々と信頼関係を築くことができ、第二期生は、連合会議や社会実験など、様々な「仕掛け」を行うことができるようになった。今後、第三期生以降は、いかに次に繋がるような仕掛けを繰り返すことができるかが課題となってくる。

この、“行動”にこだわった仕掛けを繰り返すことにより、まちに“リーダーシップ”が生まれ、本当の意味での「地元主体のまちづくり」が、可能となるのではないだろうか。

このように、確かに初めは、勉強の一環という気持ちで参加したが、現在は、すっかり日本橋の魅力にとり付かれ、抜け出せなくなってしまっている13人である。今後も日本橋活性化に向けて、まちの方々と一緒になり、少しでも手助けできることを願っている。

(日本橋学生工房代表、重松 健)



開設された日本橋サロン

## 第15回研究審議会開催される

平成16年3月4日、越 正毅委員（東京大学名誉教授）を座長とし、8名の委員及び当機構役職員の出席により、第15回研究審議会が開催されました。

会議に先立ち、安達専務理事が調査研究等の現況等を含めて総括した後、佐藤委員（国土交通省道路局長）から、最近の道路行政の動向についてお話をいただきました。その後、安達専務理事より、平成15年度事業の実施状況等について説明を行い、続いて辻常務理事より、昨年スペイン（マドリッド）で開催されたITS世界会議の実施概要等について説



熱心に審議する委員の方たち

明を行いました。

質疑においては、調査研究の具体的実施内容等について、各委員から活発

なご意見をいただきました。

（総務部総務課）

## 第20回評議員会開催される

平成16年4月15日、評議員41名（委任状によるもの及び代理出席を含む）のご出席をいただき、第20回評議員会が開催されました。

議長に田尻文宏評議員を選出した後、

議事に入り、安達専務理事より、平成15年度事業及び平成16年度事業（案）について説明を行い、全員異議なく了承されました。（同）



説明する安達専務理事

## 第42回理事会開催される

第42回理事会が去る5月31日、尾之内理事長以下理事及び監事22名の出席（委任状による出席者を含む）により開催され、以下の議案が議決されました。

1. 平成15年度事業報告及び収支決算（案）、平成16年度事業計画及び収支予算（案）について

安達専務理事からそれぞれ説明した後、いずれも原案どおり承認されました。

なお、平成15年度収支計算書及び平成16年度収支予算書は、表1、表2のとおりです。

2. 評議員の委嘱について

安達専務理事から、昨年11月の改選以降、異動のあった評議員の委嘱につ



ご審議いただく理事の方々

いて説明した後、原案どおり承認されました。

なお、改選された評議員の方々は表3のとおりです。

### 3. 役員の交替について

監事の東京ガス(株)、小林剛也取締役常務執行役員導管・保安本部長が、同社、杉山昌樹常務執行役員導管ネットワー

ク本部長に交替しました。

なお、5月31日付けの役員の方々は表4のとおりです。(同)

表1.平成15年度収支計算書

I収入の部		(単位：円)
勘定科目	決算額	
会費収入	242,800,000	
事業収入	2,989,092,666	
その他収入	86,839,798	
当期収入合計(A)	3,318,732,464	
前期繰越収支差額	706,511,509	
収入合計(B)	4,025,243,973	
II支出の部		
事業費	2,894,951,482	
管理費	219,675,870	
その他支出	178,489,993	
当期支出合計(C)	3,293,117,345	
当期収支差額(A) - (C)	25,615,119	
次期繰越収支差額(B) - (C)	732,126,628	

表2.平成16年度収支予算書

I収入の部		(単位：円)
勘定科目	予算額	
会費収入	229,000,000	
事業収入	2,200,000,000	
その他収入	110,556,000	
当期収入合計(A)	2,539,556,000	
前期繰越収支差額	732,126,628	
収入合計(B)	3,271,682,628	
II支出の部		
事業費	2,309,845,000	
管理費	202,711,000	
その他支出	27,000,000	
当期支出合計(C)	2,539,556,000	
当期収支差額(A) - (C)	0	
次期繰越収支差額(B) - (C)	732,126,628	



表3. 改選された評議員の方々 (平成16年5月31日現在)

高橋喜代志	全国知事会	調査第二部長
中村 裕	(株)みずほ銀行	新橋支店副支店長
和田 紘	古河電気工業(株)	情報通信カンパニー専務取締役 兼情報通信カンパニー長
並木正夫	(株)東芝	執行役常務 電力・社会システム社副社長
遠山敬史	松下電器産業(株)	パナソニックシステムソリューションズ社常務
滝川 豊	オムロン(株)	執行役員常務 ソーシャルシステムズ・ソリューション&サービス・ビジネスカンパニー カンパニー社長

表4. 新役員 (平成16年5月31日現在)

注:☆は新任者

会 長	豊田章一郎	トヨタ自動車(株)	取締役名誉会長
理 事 長	尾之内由紀夫		
専務理事	安達常太郎	(常勤)	
常務理事	吉田悦郎	(同)	
同	辻 英夫	(同)	
理 事	杉岡 浩	(財)道路サービス機構	理事長
同	青木保之	(財)首都高速道路協会	理事長
同	有川正治	(財)阪神高速道路協会	理事長
同	桑野健一	(財)高速道路調査会	常務理事
同	山根 孟	(財)海洋架橋調査会	理事長
同	岡野行秀	(財)道路経済研究所	理事長
同	鈴木道雄	(財)道路環境研究所	理事長
同	若尾正義	(社)電波産業会	専務理事
同	長尾 哲	KDDI(株)	取締役執行役員専務
同	立石 真	(財)日本建築センター	理事長
同	玉井弘明	東日本電信電話(株)	取締役法人営業本部副本部長
同	吉田泰夫		
同	渡邊隆二	(財)国土技術研究センター	顧問
同	栗川勝俊	新日本製鐵(株)	取締役建材事業部長
同	三木 修	(株)東京三菱銀行	公共法人部部長
同	藤江一正	日本電気(株)	執行役員常務
監 事	滝田 清	(財)道路開発振興センター	常務理事
同	☆杉山昌樹	東京ガス(株)	常務執行役員導管ネットワーク本部長
同	林 喬	東京電力(株)	常務取締役

財団日誌 (平成16年6月～平成16年11月)

月	財団(委員会等)	その他関係委員会等
6	道路環境ビジネス研究会総会(4日) 平成16年度事業計画説明会、調査研究発表会、創立20周年記念講演会、懇談会(17日)	
7	平成16年度ITSセミナー(8～9日)	第5回 IT CITY MESSE in GIFU(15～16日)
9	平成17年度道路関係予算概算要求等の説明会(28日)	
10	第16回賛助会員現地研修会(日程、場所調整中)	第11回ITS世界会議 名古屋(18～24日)
11	第43回理事会(26日)、 第20回海外調査団視察(日程、場所調整中)	